知りたいことから探す

髪
目
肌
歯と口
喉
胃腸
骨と関節
尿路
血管
心臓
脳卒中と腰
腎臓

症状から探す

老化と肌の問題
ACAFAGA
ストレス管理（交感神経とホルモン）
免疫力とアレルギー
体重管理
血圧
消化器系の問題
骨と関節
栄養とライフスタイル
性感染症
性機能障害（ED と 早漏）

ニュース

海外から届くまでの流れ：輸送ルートと手続きの完全解説
2025.03.15

血液を変える製造現場のリアル：安全・高精度の裏づくりと衛生管理
2025.04.10

薬を安全に使うための完全ガイド：副作用対応・服用管理・海外製薬の注意
2025.05.01

最近の記事

3月15日 2025
新しい一歩を踏み出す準備：自分の気持に寄り添う最初のステップ

3月16日 2025
朝のストレッチはなぜ大事？体が目覚めるための簡単な方法

3月17日 2025
朝の30分で一日の集中力が変わる！脳を活性化する簡単ルーティン

3月18日 2025
朝食は本当に大事？栄養バランスの整え方

このブログの感想をお寄せください

あなたの名前

あなたのメールアドレス

主題

あなたのメッセージ（オプション）

送信する

公開

正しい降圧薬の選び方と安全な使い方

3月 19, 2026 By Dr. Amrou Mustafa Ibrahim

高血圧は、医学的には高血圧症と呼ばれ、世界で最も一般的な慢性疾患の一つです。放置すると心疾患、脳卒中、腎臓病、視力障害など、命に関わる重大な合併症を引き起こします。長期的な健康維持において重要な役割を果たします。

本記事では、降圧薬の種類、適切な量の選び方、そして血圧の薬を服用する際に守るべき重要な注意点について解説します。

目次（もくじ） 隠す

1. 高血圧とは何か
2. 降圧薬とは何か
3. 降圧薬の種類
4. 適切な降圧薬の選び方
5. 血圧の薬を飲むときの注意点
6. 降圧薬の副作用
7. 高血圧をよりよく管理するためのポイント
8. まとめ
9. よくある質問
10. 参考文献

高血圧とは何か

高血圧とは、動脈を流れる血液の圧力が正常よりも高い状態が持続していることを指します。その状態が続くと、心臓にはより大きな負担がかかり、血管にもダメージが蓄積していきます。これが長期にわたると、さまざまな心血管疾患のリスクが高まります。

日本では、心臓が収縮した時の最高血圧（収縮期血圧）と、拡張したときの最低血圧（拡張期血圧）の2つの数値で表されます。

JNC7（米国合同委員会第7次報告）の定義によると、成人の正常血圧は収縮期血圧120 mmHg未満かつ拡張期血圧80 mmHg未満とされています。高い場合には高血圧と診断されます。

成人の血圧分類は次の通りです。

降圧薬とは何か

降圧薬とは、血管を拡張したり、心臓の負担を軽減したり、体内の余分な水分を排出したりすることで高くなった血圧を下げる薬の総称です。

これらの血圧コントロールは、次のような主て重要です。

- 脳卒中などの合併症を予防する
- 高血圧の長期管理を支える
- 心血管の健康を守る

通常は、生活習慣の改善だけでは降圧目圧を保てない場合に、医療従事者がこれらの薬を処方します。

降圧薬の種類

メイヨークリニックによると、高血圧の薬にはいくつかの系統があり、それぞれ作用の仕方が異なります。医師は、より子供に適した薬を選ぶ際に、年齢、人種、他の病気の有無を考慮します。他の心血管疾患にも効果があるものを選ぶ場合もあります。

降圧薬の作用機序によっていくつかのタイプに分けられます。代表的なものは次のとおりです。

第一選択の降圧薬

1. サイアザイド系利尿薬

サイアザイド系利尿薬は、尿量（利尿）を増やし、ナトリウムや水分の排泄を促すことで、体内の余分な塩分と水分を排出します。その結果、血液量が減少し、心臓に掛かる血液（血流）が軽減されます。代表的なものは次のとおりです。

- ヒドロクロロチアジド
- クロルタリドン
- インダパミド

2. カルシウム拮抗薬

カルシウム拮抗薬は、血管平滑筋や心臓細胞内へのカルシウムの流入を妨えることで、血管を拡張し、血圧に必要な血液を効果的に下げます。増加にとも、他の降圧薬との併用でも効果があり、他の心血管疾患にも効果があります。

代表例は次のとおりです。

- アムロジピン
- フェロジピン
- ニカルジピン
- ニフェジピン

3、ACE阻害薬

ACE阻害薬（アンジオテンシン変換酵素阻害薬）は、レニン・アンジオテンシン・アルドステロン系（RAAS）を抑制し、血管を拡張させることで血圧を下げます。代表例は次のとおりです。

- エナラプリル
- リシノプリル
- ラミプリル

4、ARB（アンジオテンシン受容体拮抗薬）

ARBは「アンジオテンシン受容体拮抗薬」は、血管を収縮させ血圧を上昇させるアンジオテンシンというホルモンの作用をブロックすることで、血圧を下げる薬です。代表例は次のとおりです。

- ロサルタン
- バルサルタン
- テルミサルタン

第二選択の降圧薬クラス

1種類の薬一選択薬だけでは血圧が十分に下がらない場合、別の系統の第二選択薬を追加します。

5. 利尿薬

利尿薬（体管排泄薬）は、副腎から分泌されるストレスホルモン「アルドステロンやアルドステロンに似た物質」の働きを抑制することで、心臓の血圧を下げ、心臓の負担を軽減する薬です。代表例は次のとおりです。

- ピンアロロン
- メナプロロール
- カルベロロール

6. その他の薬

A遮断薬（ドキサゾシン、プラゾシンなど）、血管拡張薬（ヒドララジン、ミノキシジルなど）、中枢性作動薬（クロニジン、メチルドパなど）は、特定の状況で使われる薬であり、多くの患者において第二選択薬として使用されるわけではありません。

それぞれの降圧薬クラスは、作用、副作用、心不全や腎疾患、糖尿病、血圧調整方法などの特徴があり、さらに各薬物のクラスベースで生活の目標の健康状態に基づいて選択されます。

適切な降圧薬の選び方

どの降圧薬を使うかは、次のような個々の要因によって決まります。

1. 年齢

高齢者では、利尿薬やカルシウム拮抗薬など、特に効果が出やすい薬があるため、若年者では別の第一選択薬が適切となる場合があります。

2. 基礎疾患の有無

- 糖尿病：腎臓保護作用や心血管保護作用が期待できるため、ACE阻害薬やARBが選ばれることが多くなります。
- 心疾患：狭心症患者、心不全、心筋梗塞の既往がある場合には、β遮断薬などが有効です。
- 腎疾患：腎機能が悪い場合、薬品排泄を減らす目的で、ACE阻害薬、ARB、利尿薬などが選ばれることが多くあります。

3. 高血圧の重症度

軽度であれば、生活習慣の改善と1種類の薬だけで目標血圧を達成できる場合もありますが、中等度から重度の高血圧では、目標値に到達するために複数の薬を併用することがよくあります。

4. 副作用

医師は、副作用に対する耐性性、すでにある病気、過去の薬剤アレルギーや副作用歴などを考慮し、副作用のリスクを最小限にしながら、長期的に有効となり得る薬を選びます。

5. 生活スタイルと服薬しやすさ

服用回数が少ない、安くすむ、または1日1回の服用など、生活スタイルに合った処方にすることで、血圧管理と治療の継続率を高めることができます。

重要なことに、多くの人の処方の中には利用で進んで、用量を変更したりすることは避けてください。用量の調整は、中止、変更、より多くの副作用のリスクを伴うことがあります。

また、オンライン薬局や薬の通販、お薬ショップなどを利用する場合であっても、医薬品の使用には個々の健康状態に応じた判断が必要であり、自己判断に頼らず、必ず医師などの専門家に相談したうえで適切に使用することが重要です。

血圧の薬を飲むときの注意点

各種ガイドラインでは、適切な薬を選ぶことに加えて、いくら薬を正しく使うことが重要だとされています。とくに次の点に注意しましょう。

1. 処方どおりに服用する

医師の指示に従い、決められた量を決められたタイミングで服用してください。自己判断で飲み忘れたり、量を調整したりすると、効果が得るまわりにくく、リスクが高まります。

2. 自己を定期的に測定する

自宅で血圧を正しく測ることで、薬の効き方を把握しやすくなります。

3. 急に中止しない

降圧薬を自己判断でいきなりやめると、血圧が急激に上昇し、危険な状態になることがあります。やめたい場合は、必ず医師のもとうでやめてください。

4. 飲み合わせに注意する

一部の市販薬やサプリメントは、高血圧治療薬に影響を与えることがあります。治療を始めたり副作用を感じたりする場合はかかりまし、新しい薬や健康食品を使うときは、事前に確認しましょう。

5. 塩分とアルコールを控える

減塩や節酒なども重要です。その他の生活習慣に対策を与えるだけでなく、降圧薬の効果を引き出すためにも役立ちます。

6. 副作用は早めに医師に相談する

何らかの体調の変化や違和感があるときは、放置せずに早めに医師に相談してください。

これらを意識することで、より良い血圧コントロールが期待できます。

降圧薬の副作用

メイヨークリニックによると、降圧薬は高血圧の治療に有効である一方で、その薬にも副作用が起こる可能性があります。

よくみられる副作用として、次のようなものがあります。

- ふらつきやだるさ
- 立ちくや眠気感
- 利尿薬による頻尿
- ACE阻害薬による乾いた咳
- カルシウム拮抗薬による足首のむくみ

多くの場合、副作用は時間とともに軽くなったり、小さに対応可能なものです。もし症状がつらい場合や長く続く場合には、医師が用量を調整したり、別の薬を変えたりすることで対処できることがあります。

高血圧をよりよく管理するためのポイント

高血圧の管理には、薬だけに頼るのではなく、生活習慣の改善が欠かせません。

取り入れやすいポイントとしては、次のようなものがあります。

- 適正体重を保つ
- 1日30分程度の有酸素運動など、定期的に身体を動かす
- 減塩を意識した食べ方（スパイスや香りを上手に使う）
- ストレスをためないようにする
- 禁煙する

まとめ

自分に合った降圧薬の選択は一律ではなく、個々の健康状態やリスク因数、薬に対する反応を医師が総合的に判断してくれる、いわば「オーダーメイド」の治療アプローチです。

高血圧は自覚症状として現れ難いことから、放置しがちになりやすいことが、大きな問題です。

そのため、心筋梗塞、脳卒中、慢性腎臓などの病気を予防するためにも、定期的な血圧測定が重要です。

現在の治療が自分に合っているかを不安がある場合は、必ずかかりつけの医師に相談し、安全かつ効果的な治療方法を一緒に見つけましょう。

よくある質問

1、降圧薬はなぜ必要なのですか。

降圧薬は、高くなった血圧を下げることで、心臓、脳卒中、腎臓などの大きな病気を予防するために使用されます。

2、医師はどのようにして適切な降圧薬を選ぶのですか。

年齢、高血圧の重症度、糖尿病や腎疾患の有無、生活習慣、副作用の出やすさなどを総合的に考慮して、医師があなたに適した薬を選びます。

3、降圧薬にはどのような種類がありますか。

主に、利尿薬、ACE阻害薬、ARB、カルシウム拮抗薬、利尿薬などがあります。

4、血圧が正常化したら、薬をやめてもよいですか。

いいえ。自己判断で薬を中止すると、血圧が再び上昇するおそれがあるため、必ず医師に相談してください。

5、降圧薬にはどのような副作用がありますか。

ふらつき、だるさ、頻尿、足首のむくみ、乾いた咳などが代表的な副作用として挙げられます。多くの場合、服用開始後に軽減することで対応可能です。

免責事項

本記事は情報提供のみを目的としており、専門的な医療アドバイスの代わりにはなりません。降圧薬や血圧の薬を開始・変更する際は、必ず医師または薬剤師にご相談ください。高血圧の治療や服用については、個々の健康状態によって異なります。

参考文献

1. クリーブランド・クリニック. 血圧降下薬（利尿薬）［インターネット］. クリーブランド・クリニック; 2021 [2026年3月19日閲覧]. 世界社. https://my.clevelandclinic.org/health/treatments/21903-antihypertensives
2. メイヨークリニック. 血圧薬の選び方：高血圧治療薬の種類［インターネット］. メイヨー・クリニック; [2026年3月19日引用]. 世界社. https://www.mayoclinic.org/diseases-conditions/high-blood-pressure/in-depth/high-blood-pressure-medications/art-20045202
3. アイリス血管研究センター（CDHC）. 高血圧に適切な薬［インターネット］. CDHC; [2026年3月19日引用]. 世界社. https://cdhc.ca/2-how-we-treat-it/2-how-we-treat-it/1-medication-for-your-high-blood-Pressure
4. 牛田 健. 降圧薬と血圧調整 Hypertension Research［インターネット］. 2011 [2024年3月19日引用]. 世界社. https://www.Nature.Com/hr/journal/v34/n4/full/hr2010-5.html
5. 日本高血圧学会. 高血圧治療ガイドライン2019［インターネット］. 日本高血圧学会; [2026年3月19日引用]. 世界社. https://www.Nature.Com/hr/journal/v34/n4/full/hr2010-5.html

© 2024 お薬ショップ All Rights Reserved.